

～翼を大きく広げて～
シマフクロウ生息地の森林の管理

網走南部森林管理署 山下 誠護
枝澤 則行
シマフクロウ環境研究会 代表 竹中 健

1. 課題を取り上げた背景

知床地域のシマフクロウは、30 年余りの保護増殖活動と調査研究により、生息環境や生態が明らかとなり、営巣状況が確認されています。

人工造林地の周辺にも生息地があり、人工林の間伐や林道の維持管理を行うためには、研究者の知見を得ながら、シマフクロウの生息環境に配慮した森林管理の具体的な方法を確立する必要が出てきました。

2. 取組みの経過

シマフクロウの生息状況を把握するために、シマフクロウ研究者である竹中氏より、間伐を実行する箇所の周辺の営巣状況や餌場の利用状況、止まり木等について情報提供をもらいました。

間伐及び林道沿線木の処理方法について、研究者と現地打ち合わせ・踏査を行い、事業実行にあたって配慮すべき点や留意事項について協議を行いました。

生息環境に配慮するためには、間伐見合わせ区域を設定し、林道沿線木の処理については抜き伐り方式を取り入れることとなりました。

3. 実行結果

- ①間伐調査及び間伐対象区域の設定については職員で実行し、営巣場所と餌場に隣接する箇所を見合わせ区域としました。
- ②林道沿線木の選木については、抜き伐り後に木漏れ日状態となるイメージで選木しました。
- ③調査結果、区域設定、選木の良否を研究者に事前の承認を得ることとし、見合わせ区域について一部手直しを行いました。
- ④生息環境の変化を避けるために、間伐と林道沿線木の処理を同一に行わないこととし、林道沿線木の抜き伐りを先に行うこととしました。
- ⑤林道沿線木の処理は営巣に影響の出ない時期の平成 24 年 10 月に実行しました。
- ⑥抜き伐りにあたっては、チェーンソーによる伐倒とし、とまり木となる枝に支障を与えないように重機の旋回に注意し作業しました。
- ⑦伐倒した立木は、作業と同時に搬出し、枝条も散乱ないように処理しました。

4. 考 察

- ①林道沿線木の抜き伐りにあたっては、処理本数を少なくすることで、環境の変化に考慮しました。シマフクロウへの影響については、今年の繁殖状況を確認して判断することとなります。
- ②間伐については、今年の繁殖に問題がなければ、間伐対象区域について、平成 26 年秋に実行することとなります。
- ③シマフクロウの生息地における森林の管理については、研究者の知見を活かして、生息環境と作業方法について、計画から実行にあたって検証を行い、共同して森林の管理を行っていく必要があります。
- ④生息地の広がりに合わせて、保護林の設定が検討課題となっています。